

# 神森快勝 17度目制覇

男子決勝 神森-前田  
前半、神森の池田俊介が  
5点目のシュートを決め  
る=県総合運動公園体育  
館(金城健太撮影)

## 小学生ハンド沖プラ杯

ハンドボールの第15回沖縄プラント工業杯争奪兼第42回県小学生大会兼第37回全国小学生大会県予選(主催・県ハンドボール協会、共催・沖縄タイムス社、協賛・沖縄プラント工業など)は22日、県総合運動公園体育館で決勝を行い、男子決勝は神森が前田を24-12で破って2年ぶり17回目の優勝を飾った。女子決勝は仲西が読谷に20-13で勝って11年ぶり3回目の頂点に立った。

男子の神森は池田俊介や新垣凜之辰らの多彩なパス回しから得点を重ねて11-6で折り返し、後半も13得点を奪った。女子の仲西はGK新川杏奈がシュートを足で蹴り出す好守が光り、ロングパスを使った速攻で得点して勝利をものにした。

男女優勝チームは8月に京都府で開かれる第37回全国大会に出場する。

【男子】
▽準決勝
神 森 27-13 宮 城
前 田 20-19 コザ
▽決勝
神 森 24(11-6)12 前 田
【女子】
▽準決勝
仲 西 16-12 当 山
読 谷 16-13 前 田
▽決勝
仲 西 20(12-7)13 読 谷

## パス回し波に乗る

多彩なパス回しで波に乗った神森が、2年ぶり17度目の栄冠を手にした。決勝の前半1分、さっそく美技を披露した。新垣凜之辰と池田俊介が短いパス交換で右サイドを駆け上がると、最後は新垣がゴール右に決めた。3分には東江琉希と荷川取昂河がワンタッチパスから東江が決め、直後に池田のゴールで3-0として流れをつくった。効果的だったパス交換について池田は「普段から試合を意識して練習している」と説明。後半は枠内へのシュートを心がけることでさらに精度を上げた。

攻撃を支えたのが堅い守備だ。ロングシュートの得意な相手エースを封じた東江は「シュートを打とうとジャンプする際、体を寄せて体勢を崩させるようにした。守りからの速攻も決まって雰囲気も良くなった」と好循環を振り返った。

翁長誠光監督は「選手の体つきも例年よりは少し大きく、どこからでも得点できる」と全国での上位進出を期待。東江は「目標は全国制覇。そのために練習では声を出して走り込みもしたい」、池田は「いっぱい点を決めてチームを盛り上げる」と意気込んだ。(又吉健次)



男子優勝の神森



# 仲西 11年ぶりV 堅守機能 速攻から加点

仲西はGK新川杏奈が足で、手で相手シュートをはじき出して読谷に20-13で勝利。チームの堅い守りが機能して、11年ぶりの優勝旗を手にした。

ロングシュートへの対応が得意という新川



女子優勝の仲西

が守りやすいゴール前にディフェンスラインを設定した。遠めから打たれても周囲に人が少ないことで「相手が見えやすい」と自信たっぷり。ゴールに近い位置で守る翁長詩音らは「相手に強く当たって、抜かれたらカバーするように注意した」と協力し合った。マイボールになると素早い長短のパスで何度も速攻を演出した。

主将の上間夏帆は「優勝できてうれしい。守備がよくできていたと思う」と喜ぶ。翁長は「目標は全国制覇。そのために限界まで走って体力をつける」、新川は「シュートを止めて得点につながるパスも出し、選手みんなが出場できる試合がしたい」と意気込んだ。

女子決勝 仲西-読谷 後半、仲西の銘刈海花が右サイドからシュートを放つ

